

中学校、高等学校を通し、「主体的・対話的で深い学び」によって 資質・能力を育成する研究（各教科成果一覧）

	国 語	数 学	英 語
研究前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校では資質・能力の育成（教材で教えること）が意識されており、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりが進んでいる。 ○ 高校では、教材を教えるという意識が強く、資質・能力の系統的育成という意識が希薄な場合が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校では資質・能力の「学びに向かう力、人間性」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりを実践している。 ○ 高校では「知識・技能を眼目に、例題を当てはめて問題を解く授業」を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校、高校それぞれが、4技能のバランスの良い定着に向けての授業を行っている。 ○ 中・高ともに、4技能の習得について工夫しているが、より汎用的な資質・能力の育成について研究する。
研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学進学後の学びも見据え、高校国語科で育成すべき資質・能力、例えば、より高度な思考力、判断力、表現力等を育むための授業の在り方について研究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の理解にとどまらず、例えば、複数のテキストを比較することで、論理的、批判的思考力の育成をねらう等、育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりを行う。 ○ 成果発表会（高校）「玉勝間」 <ul style="list-style-type: none"> ・学びをテーマとした3種類の古文を読み比べ、複数の情報を比較、整理し、テーマに関する自らの考えを形成し、表現する授業。古典分野（国語総合）において、教材を分析、評価し、価値づける活動を取り入れた。 ○ 気付き <ul style="list-style-type: none"> ・授業中、他の単元で学習してきた資質・能力を活用する場面が見られ、資質・能力が意識的・系統的に育成されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をテーマとして研究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主に課題解決型の班別学習について研究する。 ・課題設定に当たっては、本時の課題の解決で終わりではなく、次へつながるよう生徒の意欲を引き出す設定が必要である。 ・主体的な学びには、「学びに向かう力」の観点だけでなく課題解決を通じて何を達成するかといった思考力、判断力、表現力等も含んだ目標が必要である。 ○ 成果発表会（高校）「整数の性質」 <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現をねらって、課題解決型の班別学習を実践した。 ○ 気付き <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動が意味のあるものとするには、思考が深まるとはどのような状態かということについての、授業者の見通し（資質・能力ベースにおける目標）が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスニング力をつけることをテーマとして研究する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校ではコミュニケーションが必然的なものとなるよう、場面設定等の工夫がなされている。 ・高校では動機付けを行った後、ディクテーションを取り入れるなど、進め方に工夫がされている。 ○ 成果発表会（高校）「東京オリンピック招致に向けたプレゼンテーションの役割」 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使ったウォームアップ、“まなボード”を使ってのグループでの話し合い等、活動の機会のバリエーションを用意した。 ○ 気付き <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、対話的な活動をする上で「話し合う必要性」「話し合う価値」を大切にし、そのためにクリティカルシンキングの力を養うことを進めている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校で何を、どのように学んできたのか、また、中学校での学びが高校でのどのような学びにつながるのかについて相互に認識することの重要性が確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中・高を通した学習支援活動には、資質・能力についての共通理解が不可欠であるということが理解された。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技能のみならず育成する資質・能力について共通理解をすることが、小・中・高とスムーズな教育の接続には必要だということが理解された。